

ウォーキング

枝垂れ梅の菅原神社

令和5年3月11日（土）

1. ルート あすなろう鉄道内部駅～杖衝坂～菅原神社～采女ヶ丘団地～内部駅
8.0 km (11,000 歩)
2. 参加者 伊藤利男・伊橋健治・喜吉 雄・伝田 貢・中村 衛・中村軍志
福本 泉・濱田 一 8 名
3. ドキュメント

3月は観梅ウォーキングと洒落こんで菅原神社の梅園を訪ねる。四日市からあすなろう鉄道に乗り込んで終点内部駅に集合する。内部駅前の道路は東海道(国道一号線)で亀山方向に向かって歩いていくと内部川に差し掛かる。渡り終えてすぐのところを左に向かうと旧東海道の采女の里の道筋となる。采女の道筋には旧街道の名残があり、格子戸の民家がその面影を残している。



内部川



街道の格子戸の民家



金毘羅宮



まちかど博物館

街道の三叉路の小高いところに金毘羅宮が祀られている。その近くに公設のまちかど博物館があり立ち寄ったが休館日であった。社友会会員の東川さんが博物館の館長を務められているとのことであるがお会いできなくて残念であった。

この博物館のところから急坂となっていて旧東海道でも急坂の一つに数えられている「杖衝坂」である。今はコンクリートで舗装されてきれいに整備されている。坂の途中に日本武尊に因んだ史跡・杖衝坂の石柱が建てられ、その傍に芭蕉が旅の途中、この坂を越えようとしてあまりの急坂に落馬して詠んだ句『歩行(かち)ならば杖つき坂を落馬かな』の句碑が立てられていた。



杖衝坂を登る



史跡・杖衝坂



芭蕉の句碑を読む



血塚の祠と蔵



菅原神社の梅林

杖衝坂を超えると国道一号線と合流する。国道を 500mほど歩いたところを左にコースを取っていくと鈴鹿市の地内に入る。間もなく菅原神社に到達する。梅林の花盛りは過ぎているだろうとの予感は見事に外れ、まだ満開の内だろうと満足のうちに花見を楽しむ。



菅原神社と梅林

梅林をひと歩きした後、神社にお詣りする。梅林の隣にある公園の片隅をお借りして昼食を摂る。暖かな日差しを受けて話題も弾んで1時間30分ほどの休憩時間となる。帰り路は東海道を戻らず采女団地の近くを通り、内部駅に戻るコースを歩く。途中、早咲きの桜が咲いていて今回のウォーキングは梅と桜の花見を楽しむことが出来た。ありがとう！



満開の桜



内部駅のホーム